

® 平成31年 1 月 16 日(水)

No. 14851 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (39) … (1)

☆特許庁人事異動 …………… (9)

地域における観光と知的財産の関連性 (39)

東京理科大学経営学研究科教授

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

36. 福島県郡山市 (営業秘密)

福島県には59市町村があるが、3つの地方で紹介されることが多い。太平洋側から「浜通り地方」、「中通り地方」、「会津地方」と呼ばれる3つである。

「浜通り地方」は、太平洋に面したエリアで、北側は相馬市、南相馬市、双葉郡を中心とした相双(そうそう)エリア、南側はいわき市を中心とし

たいわきエリアからなる。

「中通り地方」は、県中央部、奥羽山脈と阿武隈山地にはさまれたエリアである。北から順に、県北(けんぼく)、県中(けんちゅう)、県南(けんなん)エリアに分かれる。

「会津地方」は、福島県西部一帯を占めているのが会津エリアであり、会津若松市、喜多方市を中心とした北側の会津エリアと、南会津、桧枝岐、



特許業務法人
三枝国際特許事務所

大阪オフィス

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号 北浜TNKビル
TEL: 06-6203-0941(代) FAX: 06-6222-1068 e-mail: mail@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長 中野 睦子*
社員・副所長 菱田 高弘*

化学・バイオ部

宮川 直之
河合 永文*
北野 善基*
難波 泰明
八木 祥次
森垣 善行
野村 千澄
松野 陽介
岩澤 朋之*

森嶋 正樹
幸 芳*
淀谷 幸平*
東野 匡容*
兼本 伸昭*
西橋 毅
内藤 勝志
竹本 有貴

機械・電気部

鈴木 由充
鶴 寛
奥山 美保

商標・意匠部

松本 康伸* 小川 雅加美*
青木 寛史

知財情報室

関 仁士

SAEGUSA & PARTNERS

代表社員・所長 林 雅仁*
社員・相談役 三枝 英二*

東京オフィス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビル9F
TEL: 03-5511-2855 FAX: 03-5511-2857 e-mail: tokyo@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長・東京オフィス所長 斎藤 健治
社員・副所長 岩井 智子

化学・バイオ部

藤田 雅史 池上 美穂
鴻 宗義

商標・意匠部

田上 英二 中村 剛
吉川 麻美



*特定侵害訴訟代理可能

www.saegusa-pat.co.jp

下郷などを中心とした南会津エリアに分かれる。今回のテーマは、「中通り地方」で「県中」に属する「郡山市」である。

郡山市は、東北地方で宮城県仙台市、福島県いわき市に次いで3番目に人口の多い都市である。産業都市としては福島県内で第1位、東北地方で第2位である。

江戸時代には、奥州街道の「郡山宿」があった。郡山市の発展は明治時代に開削された「安積疏水(あさかそすい)」の寄与が大きいと言われる。安積疏水は、農業用水として開拓を進め、工業用水として、水力発電や飲用水にも用いられて都市化を順調に進めた。

また、郡山駅が鉄道路線の分岐駅となって人や物が集散し、大正時代には市制施行により、本市が福島県最大の都市となった。このため、明治時代に郡山市を福島県の県庁所在地にしようという運動があったくらいである。

2013年9月1日には推計人口が328,112人となり、それまで県内最大だったいわき市(327,993人)を上回り1966年以来約47年ぶりに県内最大都市に復帰した。しかし2016年1月1日段階では再びいわき市(349,190人)に県内最大都市の座を明け渡した。

戦後の高度経済成長期には京浜工業地帯の企業が多く進出し、関東地方との繋がりが強まった。

図1：福島県の市町村



(1) 地理

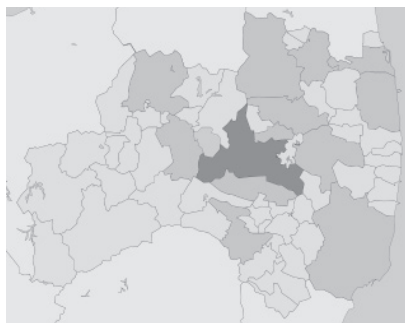
郡山市域は、中央分水界となっている奥羽山脈の東西にわたっている。市の西部は日本海側である猪苗代湖南岸に位置し、東部は阿武隈高地に及んでいる。

市街地エリアは、栃木県宇都宮市と宮城県仙台市の中間に位置しており、東北新幹線・東北

本線・東北自動車道・国道4号で繋がれている。

日本海側の会津若松市や新潟市と、太平洋側のいわき市へは、磐越自動車道や磐越西線・磐越東線および国道49号で移動ができる。このため、郡山市は東日本の交通の十字路として拠点化が進み、経済、内陸工業、流通、交通の要諦となっている。

図2：郡山市



(2) 歴史

縄文・古墳時代の遺跡も多く、「続日本紀」の頃、718(養老2)年に郡制が敷かれた。古代では7世紀に「安積郡」が設置されて以来、「安達郡」と「田村郡」が10世紀に分郡されるまで、現在の二本松市と田村市を含む広大な地域の中心地として郡山の地は機能していたとみられる。中心市街地直下に位置する清水台・咲田・虎丸遺跡が関係する遺跡として考えられる。

当時の古代律令制度の下で、「郡の官人(郡司)」が政務を執った役所のことを「郡衙」と言うが、「郡山」という現在の地名は郡衙が当地に置かれていたことに由来する。

11世紀になると、東部を中心として藤原氏や熊野の荘園が設置され、樹枝状の低地にも開発が進んだ。鎌倉時代には伊東氏の宰領する土地であったことが文献から推測されている。鎌倉時代末期には東部地域が南北朝の争乱地帯となり、源頼朝の重臣・工藤祐経やその一族・安積(あさか)氏の勢力下になった。郡山市の中心部は安積町であった。

室町時代を迎えると、安積町に「篠川御所」が設けられたことで、南東北の政治的中心地となった。しかし、郡山市域の「伊東氏」は早くから分家が分立した状態にあり、中世を通じて